電気柵を正しく使いこなしましょう！

◆電気柵は正しく使えば獣害防止に高い効果を発揮します

電気柵は、電気ショックで動物を追い払い、農作物を守るシステムです。
　①電気ショックによる痛みの効果　②この柵は危ないと思わせる心理的効果
の２つの効果により、慣れを生じにくく長期間効果を発揮します。

獣害対策に電気柵を使用する際は安全のための法令を遵守しましょう。
また、長期間効果を得るためには適切な管理が必要です

◆安全使用のルール

人に対する危険防止のために、電気事業法によって施設方法が定められています。

① 専用の電源装置を使用すること…電気柵用パルス発生装置（本器・本体とも言う）を使用しましょう。
② 危険表示をすること…人が見やすいよう適切な間隔で危険表示板を取り付けましょう。
③ 漏電遮断機を設置すること…30 ボルト以上の電源（家庭用コンセント等）から電気を供給するときは漏電遮断機を設置しなくてはなりません。
④ 電波発生による障害を防止すること…万一、設置後に近隣のテレビ・ラジオ等に障害を起こした場合は設置方法を工夫しましょう。

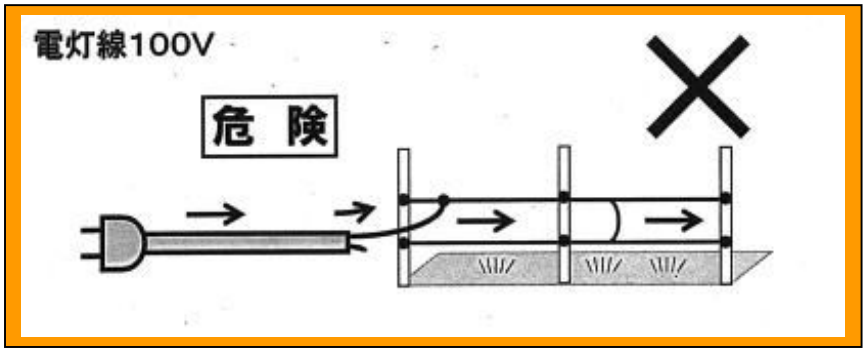
パルス発生装置（例）

危険表示板（例）

漏電遮断機（例）

◆こんな柵は、危険です！

家庭用コンセント等から柵線に直接電気を流すと、感電・火災のおそれがあり大変危険です。
絶対にしてはいけません。



◆長期間、獣害防止効果を得るために

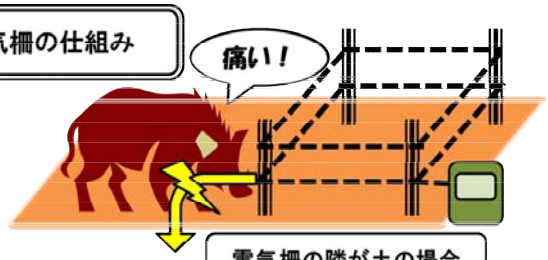
適切な管理をしていない電気柵等は、いずれ効果が無くなるばかりか、かえって農地に害獣を誘導してしまいます。
詳しくは裏面をご覧ください

静岡県志太榛原農林事務所　地域振興課　TEL054-644-9224

効果的な電気柵の設置について

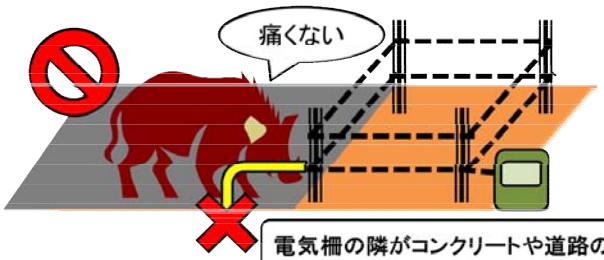
農作物を守る上で効果的な電気柵ですが、設置方法が不適切ですと満足な効果を得られません。電気柵の特性を生かした設置をお願いします。

電気柵の仕組み



電気柵の隣が土の場合

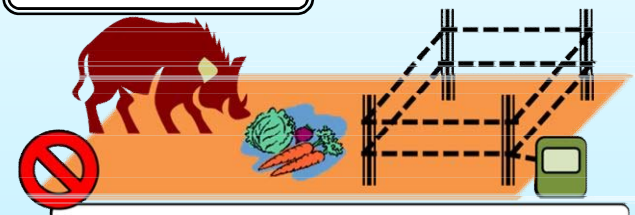
電気が地面に流れて感電します。



電気柵の隣がコンクリートや道路の場合

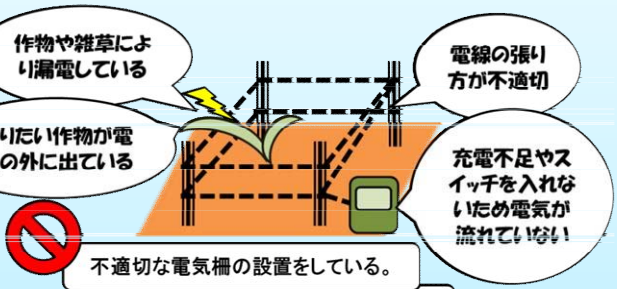
電気が地面に流れず、感電しません。

不適切な被害対策



電気柵の外に未収穫の野菜や廃棄野菜、家庭残飯を捨てる。

人間にとってはゴミでも、動物には食べ物になります。

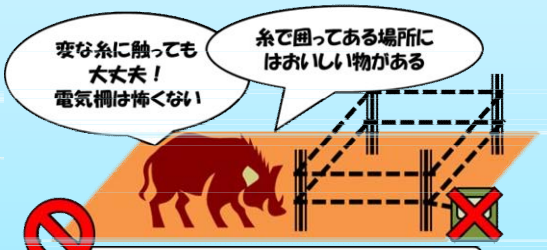


不適切な電気柵の設置をしている。

電気柵設置の効果が満足に出ません。

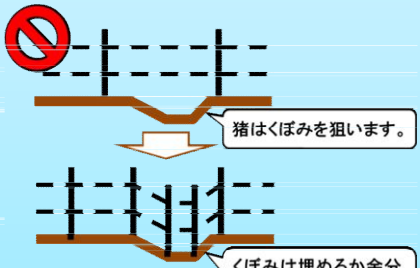
音や光だけの防護では不十分です。

慣れてしまう恐れがあります。



電気柵ではない普通の糸を使って囲っている。

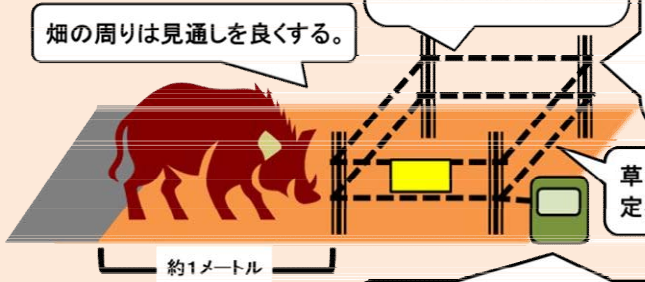
他の電気柵の効果が無くなる恐れがあります。



猪はくぼみを狙います。

くぼみは埋めるか余分に支柱を立てましょう。

効果的な電気柵の張り方



電気柵の内側にトタンで目隠しした柵を付けるとさらに効果的です。

獣に合わせた電線を張る。
（猪の場合）
地面から高さ約20cmと40cm
3段以上にするとさらに効果的です。
シカの場合はさらに高く張る必要があります。

畑の周りは見通しを良くする。

草刈りや充電を行うなど定期的な管理を行う。

機械の盗難にも注意

約1メートル

道路などからは約1メートル間をあける。

可能な場合は24時間通電を行う。
目の付く所へ電気柵使用中の札を付けてください。また、周囲の人へ注意を喚起してください。

草刈りを行い、山から獣が来にくい環境づくりをしましょう。

昼間に獣が出たら24時間通電